

集 合 場 所

横浜駅 ~天理ビル前~



相鉄・高島屋の共同ビルの隣、ヨドバシカメラの向かい側。天理ビルと書かれているわけではなく、「あおぞら銀行」の看板が目印です。

新宿駅 ~中央通り、工学院大学向かい側



新宿駅西口を出て、徒歩5分ほどの場所にある工学院大学。中央通り沿いに進めば間違いなく発見できます。工学院大学の向かい側にてお待ちください。

ご旅行条件のご案内

このツアーに含まれている経費	2泊3日のバス料金、高速代、2朝食2夕食、ホテル料金。
このツアーに含まれていない経費	昼食代、クリーニング代、通信費。お客様の傷害疾病に関する医療費入院費及び国内旅行傷害保険料。その他個人的な諸経費。
取消料	旅行開始日の1週間前 = 旅行代金の50% 旅行開始日の3日前及び無連絡不参加 = 旅行代金の100%
旅行代金、振込先	二泊三日バス旅行代金30,500円。5月15日まで 振込先1；郵便口座 店番028 普通 7486753 名義 少林寺 振込先2；銀行口座 スルガ銀行 横浜戸塚支店 普通2103718 名義 少林寺代表 赤間秀弘（アカマシュウコウ）
備考	旅行者保険は各自ご加入ください。常備薬、健康保険証をご持参ください。現地の方達と今後の交流を図る為、名刺等のご持参をお勧め致します。ボランティア活動は行いませんが動きやすい服装で。不明点は少林寺まで。



貸切バスで行く、復興応援 南三陸・気仙沼の旅



旅行企画

横浜 少林寺

横浜市栄区飯島町1687
TEL 045-897-3650
FAX 045-897-3652

バス会社

(有)RISING SUN

越谷市大泊265-2
TEL 048-978-7778

日 程 表

訪問地の紹介

気仙沼市

当市域はかつて本吉郡に属していたが、北側に隣接する岩手県沿岸南部の気仙郡地域（大船渡市・陸前高田市ほか）とは古くから一つの地域圏を形成しており、江戸時代には同じ仙台藩に属していた背景から方言も近似する。現在でも県境を越えた交流が深く、当市は三陸海岸南部の商業拠点となっている。また、変化に富んだリアス式海岸の観光も発展している。

特定第三種漁港の気仙沼漁港を初めとした市内の各漁港は、三陸海岸での沿岸漁業・養殖漁業、世界三大漁場「三陸沖」での沖合漁業、さらに世界の海を対象にした遠洋漁業の基地として機能し、関連する造船から水産加工までの幅広い水産業が立地する。

このような背景から当市は、気仙沼都市圏の中心市としての買物客の集客や各地から訪れる観光客に加え、カツオを追って北上してくる千葉県・高知県・宮崎県などの漁船、サンマを追って南下してくる北海道などの漁船に乗った日本各地の漁民が行き交い、遠洋漁業の外国人乗組員や水産加工に従事する外国人研修者が働き、特産のフカヒレを買い求める中国人バイヤーなどが訪れる、常住人口に比して交流人口が多種多様な県内有数の交流拠点の1つである。名物の1つである「気仙沼ホルモン」は、このような人々の広域な交流と産業背景から生み出されたものとして知られる。2011年（平成23年）3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、地震そのものの被害に加え、津波・火災・地盤沈下によって大きな被害を受けた。（wikipediaより）

清涼院 気仙沼市本吉地区にある曹洞宗の寺。昨年の地震発生時より約30余名の避難所として本堂及び伽藍境内地を全て開放。この地区の災害対策本部であった。（ボランティア団体）SVAシャンティーの拠点として現在も境内地を提供している。震災後私が一番最初にお世話になった場所。

気仙沼復興商店街 昨年12月にオープンした2階建て7棟51店舗が入る日本最大級の仮設商店街。

（株）八葉水産 気仙沼を代表する水産加工会社の1つ。水産加工場を津波で全て失いながらも60余名の避難者を昨年7月頃まで受け入れ自宅を開放していた。不撓不屈の精神で加工場を再開されたそうで、今回は特別に工場見学・当時の状況・今後への思いを私達に語って下さる事に。また震災後気仙沼を忘れないで欲しいとの思いから、帆布生地を使った商品を製造する会社（株）GANBAAREを立ち上げた熱い心を持つ経営者である。

復興マルシェ 今年3月からスタートした鹿折（ししおり）地区の仮設商店街。鹿折地区も津波・火災の被害が甚大で打ち上げられた大型船がとてつもない衝撃的。何もなくなってしまった鹿折からスタートする為にオープンしたとの事。

南三陸町

宮城県の北東部、本吉郡の南部に位置し、志津川湾、伊里前湾に面する町。湾内には椿島、竹島、船形島、野島などの島があり、リアス式海岸特有の優れた景観を持つ。沿岸部一帯は南三陸金華山国定公園の指定を受けている。

西・北・南西は北上山地の支脈に連なっており、町土の70%以上は森林である。

リアス式海岸の地形的な特性から津波の影響を受けやすく、近世以前においては平安前期の貞観地震（869年）にともなう大津波など、近代以降では、1896年（明治29年）の明治三陸大津波、1933年（昭和8年）の昭和三陸大津波、1960年（昭和35年）のチリ地震津波によって大きな被害を受けている。そのため、沿岸部には、防波堤や防潮堤、水門などが設置されている。しかし2011年（平成23年）、東北地方太平洋沖地震によって被災し（東日本大震災）、特に大津波による被害は甚大となった。この地殻変動は先の貞観地震以来141年余りを経て繰り返された現象と見なされている[1]。また、この地殻変動によって当地域内の志津川地区の地盤は、水平方向に442cm、垂直方向にマイナス75.27cm移動したことが、GPS（全地球測位システム）を用いた国土地理院測地観測センターによる分析の結果、明らかとなった（Wikipediaより抜粋）

慈眼寺 私の大学の同級生の寺。奇跡的に墓地は被害を免れたが津波により伽藍消失。南三陸町戸倉地区に有る曹洞宗の寺。戸倉地区は数軒を残しほぼ建物が消失してしまったエリアの1つ

ホテル観洋 南三陸町を代表するホテルの1つ。震災直後から600人以上の避難者を受け入れたとのこと。サービス・ロケーション共に素晴らしい。

復興市 震災から僅か1ヶ月足らずで福が興るという意味合いで催された。

今度は居酒屋だよ！日の出荘 神割崎という場所で民宿を営んでいたが津波により消失。ベイサイドアリーナ近くで地元の食材を生かした居酒屋としてオープン。当日お休みのところ特別に我々の為だけに貸切にしてくれた。キップのいい店長と美味しい料理が特徴。

伊里前福幸商店街 震災前歌津地区にあった商店街は全て消失したとの事。昨年12月現在の地に仮設商店街として再スタート。シロウオ漁が有名で天気恵まれれば魚を見せて頂けるとの事。とれたてをいただけるかも。

さんさん商店街 志津川地区にあった全ての商店街が消失。今年2月現在地に仮設商店街として店舗数30軒の再スタートとの事。

田束山 南三陸町を代表する山で、霊峰として古くから仏教徒の修行の場として知られ、頂上から見下ろす360度のパノラマ的景観は絶景である。（wikipediaより）奥州藤原氏が信仰した山ともいわれ、つつじの名所との事。

月日 (曜)	時間	摘要	食事
5/26 (土)	08:00 09:00頃 09:15頃 10:30頃 10:45頃 18:00頃	少林寺 出発 横浜駅着 横浜駅発 新宿駅着 新宿駅発 東北道へ サンマリン気仙沼ホテル観洋着 宿泊 食事後自由行動～気仙沼復興商店街などへ～	昼食 東北道SA内各自 夕食 気仙沼ホテル観洋
5/27 (日)	08:00 出発 09:30頃 着 10:30頃 発 10:40頃 着 12:30頃 発 12:40頃 着 13:40頃 発 14:10頃 着 14:40頃 発 15:00頃 着 15:50頃 着 16:10頃 発 16:40頃 着 17:30頃 発 17:40頃 着 18:00頃 着	気仙沼ホテル観洋出発 南三陸町復興市へ 南三陸町ベイサイドアリーナ着 復興市買い物 ベイサイドアリーナ出発 さんさん商店街へ さんさん商店街 語り部さんのお話、買い物 さんさん商店街出発 日の出荘へ 日の出荘にて昼食（キラキラ丼、キラキラうに丼） 日の出荘出発 田束山へ（読経焼香） 田束山 読経焼香。散策 田束山 出発 伊里前川素魚（しろうお）漁見学 伊里前福幸商店街見学 伊里前出発 戸倉へ 戸倉慈眼寺へ 読経焼香 慈眼寺出発 自然の家仮設住宅SKC母ちゃんクラブ訪問 南三陸ホテル観洋着 宿泊	昼食 日の出荘にて（各自） 夕食 南三陸町ホテル観洋
5/28 (月)	07:30 出発 08:00頃 着 08:30頃 発 09:30頃 着 10:30頃 発 11:00頃 着 11:30頃 発 12:00頃 着 13:00頃 発 14:00頃 着 14:30頃 出発 21:30頃 着 22:30頃 着 23:00頃 着	南三陸ホテル観洋出発 志津川中学校着 志津川中学校出発 （株）八葉水産着 見学お話 （株）八葉水産出発 鹿折復興マルシェへ 鹿折復興マルシェ着 軽食、買い物、見学 復興マルシェ出発 唐桑牡蠣小屋へ 唐桑牡蠣小屋着 昼食 牡蠣小屋出発 大谷清涼院へ 清涼院拝登 読経、法話など 清涼院出発 帰路へ 新宿駅 工学院前着 横浜駅 天理ビル前着 少林寺着	昼食 唐桑牡蠣小屋（各自） 夕食 東北道SAにて各自

現地での日程は部分的に変更になる可能性があります。